

開設年度		開講部局	
2014		共通教育	
科目名			
進取の精神体験学習in鹿児島			
英語科目名			
Experiential Learning for Enterprising Spirit in Kagoshima			
前後期	開講区分	科目形態	単位数
前期	毎週	講義	2
(25年度以降入学生)中分類		(25年度以降入学生)小分類	
a. 実践・判断・精神力		2. 自己確立・他者理解を学ぶ	
(24年度以前入学生)大区分		(24年度以前入学生)中区分	
教養科目		人間教育科目	
受講学部学科			
全学部			
担当教員		担当教員所属	
吉田浩己		稲盛アカデミー	
連絡先(TEL)		連絡先(MAIL)	
099-285-3760		inamori@gm.kagoshima-u.ac.jp	
オフィスアワー(授業時間外の対応)			
共同担当教員			
メインキーワード		サブキーワード	
自己の確立		社会問題への理解と実践	
授業概要(目的・内容・方法)			
<p>本授業の目的は、鹿児島大学教育目標に則し、向上心をもって自ら困難に立ち向かう態度(進取の精神)および地域における活動に積極的に関わり、社会の発展に貢献できる行動力を養うことである。</p> <p>本授業の内容および方法は、1)本学の歴史や日本の近代化を推進する過程で多くの困難に果敢に挑戦した鹿児島の若者について学び、本学が先人より引き継ぐ「進取の精神」を理解する。2)平成26年度は、鹿児島で社会の発展のための活動を展開している団体等の中で、ユネスコ協会、竹子農塾、屋久島環境文化村センター、日赤血液センターの4団体の責任者等によりそれぞれの活動について講義を受けた後、受講した学生が土・日曜日、休日等にこれらの活動への自主的参加を決断する行為や、地域社会の現場での活動に積極的に参画するなかで、進取の精神と行動力を涵養する。責任者等は、講義だけではなく、休日等の現場において学習を支援する。</p>			
学習目標			
<p>(1)「進取の精神」の概要について理解し、説明することができる。</p> <p>(2)「進取の精神」を継承し、困難な課題にも果敢に挑戦できる。</p> <p>(3)「持続可能な社会」の構築に貢献できる行動力を養う。</p>			
授業計画(15回に分け、回数、授業内容、自学自習等)			
<p>1. ガイダンス</p> <p>2. 「進取の精神」とは何か</p> <p>3. 鹿児島における「進取の精神」</p> <p>4. 「進取の精神」の実践(1) [環境:屋久島環境文化村センター]</p> <p>5. 「進取の精神」の実践(2) [環境:屋久島環境文化村センター]</p> <p>6. 「進取の精神」の実践(3) [国際:ユネスコ協会]</p> <p>7. 「進取の精神」の実践(4) [医療:日赤血液センター]</p> <p>8. 「進取の精神」の実践(5) [国際:ユネスコ協会]</p> <p>9. 「進取の精神」の実践(6) [医療:日赤血液センター]</p> <p>10. 振り返り(中間)</p> <p>11. 「進取の精神」の実践(7) [国際:ユネスコ協会]</p> <p>12. 学生にできる「進取の精神」の実践とは何か</p> <p>13. 「進取の精神」の実践(8) [農業:竹子農塾]</p> <p>14. 「進取の精神」の実践(9) [農業:竹子農塾]</p> <p>15. 振り返り(まとめ)</p>			

16. 期末試験は行わない(指定期日までにレポートを提出)

授業外学習(予習・復習)

各授業の際に指示をする。

受講要件	成績の評価基準
<p>本講義のテーマに関心を持ち、「進取の精神」を実践・継承していきたいと思っていること。</p>	<p>授業への参加度(授業態度や参画度など):60%、課題等提出物(リアクションペーパーやレポート、最終レポートなど):40%、で総合的に判断する。学期末試験は行わない。[注意]次に該当する場合は評価対象外とする。(1)出席が総授業数の3分の2未満の場合、(2)最終レポートの提出がない場合。</p>
教科書	参考書
<p>特になし。</p>	<p>授業中に指示をする。</p>

その他

授業を受けた上で土曜日・日曜日、あるいは夏休みなどを利用して、講師が行っている活動に自主的な参加を勧める。